

本年度業務の進め方について

環境省自然環境局自然環境計画課

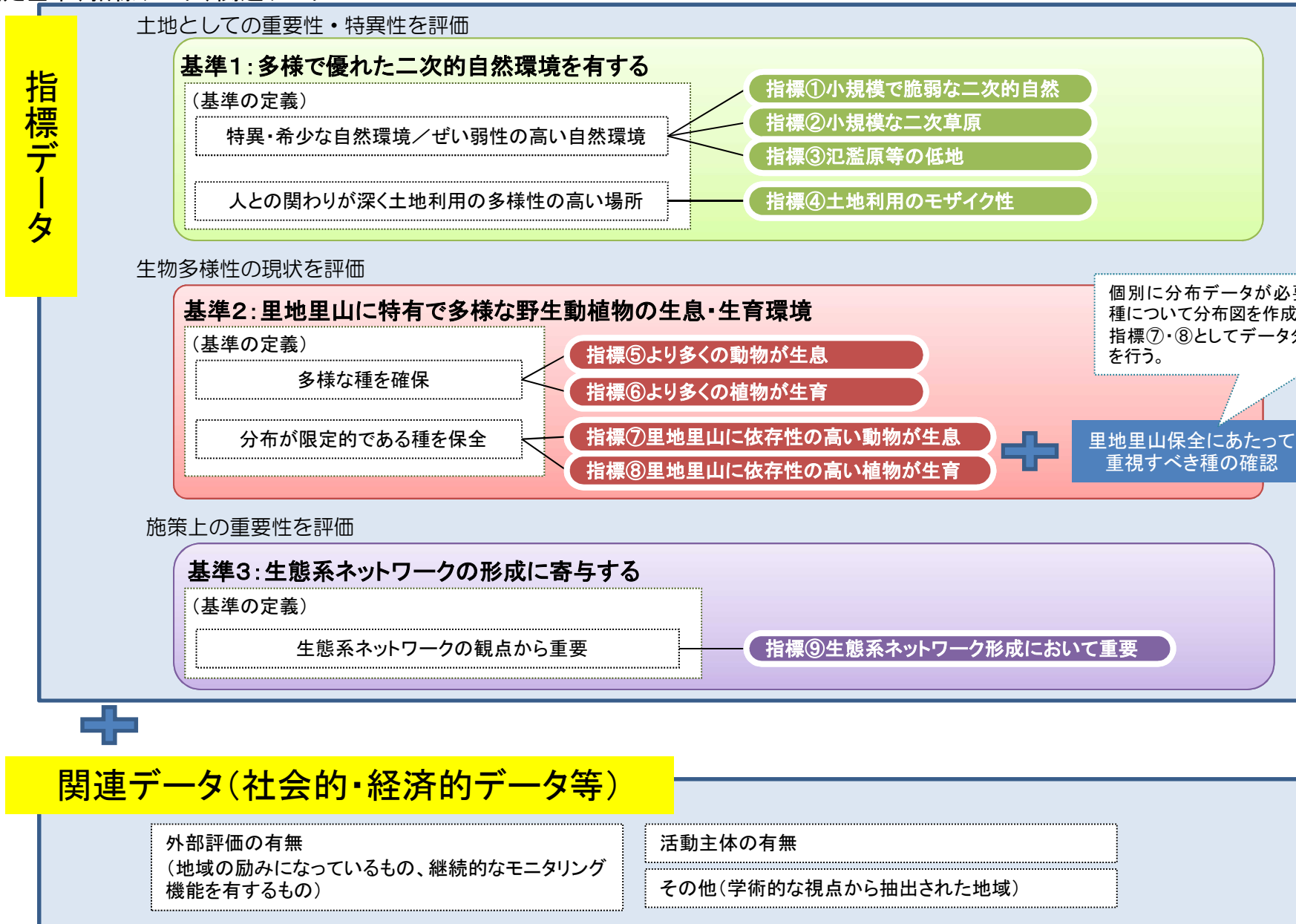
平成26年10月9日

資料1-1 「重要里地里山」の選定にかかるこれまでの検討結果①

名称:	「生物多様性保全上重要な里地里山（略称 重要里地里山）」
選定の目的:	生物多様性保全に取り組むことが国家的・社会的課題とされる中、国土の生物多様性保全の観点から重要な地域を明らかにし、これを核に生態系ネットワークの構築も視野に入れ「国土レベルでの里地里山保全」を進める。
選定の方法:	里地里山の状況を把握できる全国規模の調査に基づくデータ及び専門的知見から、科学的手法に基づき生物多様性保全上重要な地域を選定する。 なお、生物多様性豊かな里地里山が守られるためには、適切な利活用が行われることが不可欠であり、これまで保全・活用が活発に行われてきた場所は、本選定における重要性を有する里地里山である可能性も高い。そのため、生態系や生物相といった自然科学的な面に加え、社会的・経済的な面にも着目することで、より実態に即した選定が可能になると考える。 以上を踏まえ、選定にあたっては、「専門的知見の活用(デルファイ法による選定)」を行い、自然科学的、社会的・経済的な面から、客観的に里地里山の生物多様性を評価できるようにする。
保全活用の方向性:	・選定された里地里山は、各地域の現状・課題を踏まえ、既存の政策も含めた保全活用方策のモデル的検討に資する地域であるとともに、別途検討されている「重要海域(里海含む)」「重要湿地」などとのつながりを考慮した生態系ネットワークの核となる地域として、重点的に保全活用策を講じることを検討する。 ・なお、選定地は、その保全活用の状況に応じて、適宜見直し・フォローアップを行うこととする。
目指す姿:	★保全対象となる里地里山が明らかになることによって、地域レベル、国土レベルでの里地里山保全活用への理解が進むとともに、保全活用の取組が促進し、できる限り多くの里地里山を健全な状態で次世代に引き継いでいくことが可能となる。 ★里地里山を国土の自然環境の骨格をなすものの一つとして位置づけ、「森・里・川・海の手ながり」を確保した生態系ネットワークを構築する。

資料1-1 「重要里地里山」の選定にかかるこれまでの検討結果②

選定基準、指標データ、関連データ:



資料1-2 「重要里地里山」の評価・選定のために提示した基礎情報図のデータ一覧①

基本データ	里地里山とみなすメッシュ ※指標データとの重なりをみる	里地里山メッシュ	3次メッシュ(現存植生図をもとに抽出)
		小規模な二次草原	3次メッシュ (全国規模で正円1ha以上の小規模二次草原を抽出)

指標データ	基準1 (多様で優れた二次的自然環境を有する)	特異・希少な自然環境／ぜい弱性の高い自然環境	①小規模で脆弱な二次的自然地域	3次メッシュ (生物多様性評価地図「小規模で開発等に対して脆弱な生態系を有する地域」)
			②小規模な二次草原	3次メッシュ(全国規模で正円1ha以上の小規模二次草原を抽出)
			③氾濫原等の低地	3次メッシュ (土地分類基本調査「土地分類メッシュ:低地(扇状地性低地・三角州性低地・氾濫原性低地)」)
			④土地利用のモザイク性	3次メッシュ (国環研「日本全国さとやま指数メッシュデータ」)
	基準2 (里地里山に特有で多様な野生動植物の生息・生育環境)	種の多様性を確保	⑤より多くの動物が生息	2次メッシュ (生物多様性評価地図「全ての日本固有種(脊椎動物)の効率的な保全に寄与する地域」)
			⑥より多くの植物が生育	2次メッシュ (生物多様性評価地図「全ての絶滅危惧種(維管束植物)の効率的な保全に寄与する地域」)
			⑦里地里山に依存性の高い動物が生息	2次メッシュ (生物多様性評価地図「分布域が限定される絶滅危惧種の確認種数(動物)」)
			⑧里地里山に依存性の高い植物が生育	2次メッシュ (生物多様性評価地図「分布域が限定される絶滅危惧種の確認種数(維管束植物)」)
	(里地里山保全にあたって重視すべき種)	動物の分布	哺乳類、鳥類、両生類、昆虫類等の分布データ	2次メッシュ
			* I類・II類、準絶滅危惧種、(普通種)	(日本の動物分布図集、鷲谷研指標種参照)
	※基本データとの重なりはみない	植物の分布	維管束植物の分布データ	2次メッシュ
			* I類・II類、準絶滅危惧種、(普通種)	(自然研データ、鷲谷研指標種)
基準3 (生態系ネットワークの形成に寄与する)	生態系ネットワークを考慮	⑨生態系ネットワーク形成において重要	2次メッシュ (オオタカ・サシバの生息地)	

資料1-2 「重要里地里山」の評価・選定のために提示した基礎情報図のデータ等一覧②

関連データ ※里地里山メッシュとは関係なく全国規模で抽出	候補地抽出のための社会的・経済的データ	外部評価の有無 (地域の励みになっているもの、継続的にモニタリングが行われるもの)	地方自治体による選定地、生物多様性地域戦略による指定地域	緯度・経度データ (地域計画:山形県・東京都・神奈川県・福井県・大阪府・長崎県、地域戦略:石川県、福井県、三重県、佐賀県、柏市、岡崎市、神戸市、宝塚市、西宮市、北広島町)
			ラムサール登録湿地	緯度・経度データ
			世界農業遺産	緯度・経度データ
			モニ1000里地調査(コアサイト)	緯度・経度データ
			重要文化的景観(文化庁)	緯度・経度データ
			にほんの里100選(朝日新聞社)	緯度・経度データ
			日本の棚田百選(農林水産省)	緯度・経度データ
			ため池百選(農林水産省)	緯度・経度データ
			プロジェクト未来遺産(日本ユネスコ協会連盟)	ー 第1回～第5回登録地
			活動主体の有無	特徴的な取組事例(環境省) (環境省モデル事業地区・日本の里地里山30等含む)
	モニ1000里地調査(一般サイト)	緯度・経度データ		
	里地里山の活動フィールド分布(1023地点)	緯度・経度データ (環境省・日本自然保護協会調査結果(2001)より)		
	田園自然再生活動コンクール ニッポンの里山(NHK BSプレミアム)	緯度・経度データ		
	その他	(学術的な視点等から抽出された地域)	「伝統的な土地利用により形成された注目すべき二次的自然(里山二次林生物群集/谷津田生物群集/ため池群生物群集/二次草原生物群集)」	3次メッシュデータ (「重要湿地」選定時(H9)に、研究者や都道府県等アンケート調査で情報収集し、参考文献等で補完し整理された地域(種別C))
「昆虫類の多様性保護のための重要地域」			ー ※HP参照(石井実委員から情報提供もいただける予定)	
「重要野鳥生息地(国内IBA)」			ー ※HP参照	
「生物多様性保全を目指す里地里山地域」			ー 【(公財)大阪みどりのトラスト協会 活動地域】	

その他の参考情報				
※上記データによる選定・精査時に参照	・動植物の分布状況の地域特性を考慮するための情報	生物多様性保全のための国土区分(国土10区分)	メッシュデータなし (生物多様性保全のための国土区分ごとの重要地域情報:H13.環境省)	
	・動植物の分布状況の地域特性を考慮するための情報	里地里山の二次林6区分	メッシュデータなし	
	・選定地の地域バランスをみるための情報			
	・水系の情報	主要河川	メッシュデータなし	
	・生態系ネットワークの観点からみるための情報	生きものの視点からの全国エコ・ネットの将来図	(全国エコロジカル・ネットワーク構想)	
		重要湿地500	ポリゴンデータ	
		重要海域	(H26の夏頃公開予定)	
	・選定地の状況(公園内・周辺・公園外)をみる情報	日本の自然保護地域(国立公園・国定公園)	ポリゴンデータ	
・活動の継続可能性に関する情報	日本の人口分布(主要都市の人口規模)	メッシュデータなし		

※上記データのほか、分科会では、自治体等から聞き取る属性情報(選定地の現状・課題、里地里山と人との関わりなど)を整理

資料1-3 選定の具体的進め方

(里地里山の環境を知る目安となる動植物に着目)
 分布データのある種・指標種の整理(事務局)
 ⇒個別に分布データが必要な種を選定(各専門家)

→鷲谷研「里100選 指標種」を活用

データ選定

里地里山の状況

(指標データ)全9指標
 * 自然科学的データ
 →生態系の質
 →土地利用のモザイク性
 →動植物の分布 など

属性情報

(関連データ)
 * 社会的・経済的データ
 →準備データ(外部評価の有無、活動主体の有無、予測人口など)
 →関係者からの聞き取り情報

その他(参考情報)

→国土10区分、里地里山の二次林6区分
 →重要湿地500、重要海域
 →国立公園・国定公園 など

データ分析図

・指標データの重ね合わせによる抽出
 ・その他分析

基礎情報図

抽出(候補地)

専門的知見の活用(デルファイ法図)

データ分析図・基礎情報図等をもとに、生物多様性保全上重要な里地里山を抽出

(委員による候補地案)

・インターネット地図情報等をもとに候補地として抽出
 (候補地案:リスト・図化*)
 ※非公表

集計

候補地の属性情報聞き取り
 (委員、自治体、関係省庁等)

全国レベルで集計(事務局)

精査

地域別分科会(委員間での講評)

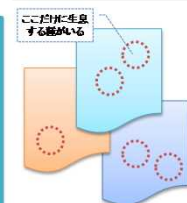
* 全国レベルでの重要性
 * 地域特性
 * 保全の優先度 等

・分科会検討結果等をもとに最終選定地案を整理
 (最終選定地案)

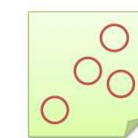
「重要里地里山」
 選定

・データ分析結果、基礎情報図等をもとに、委員ごとに、担当する地方を中心に、所在地・地区名あるいは図面に直接候補地を落としてもらう。
 (選定理由もあわせて記載してもらう)

委員による候補地抽出



○: 地域レベルでの候補地

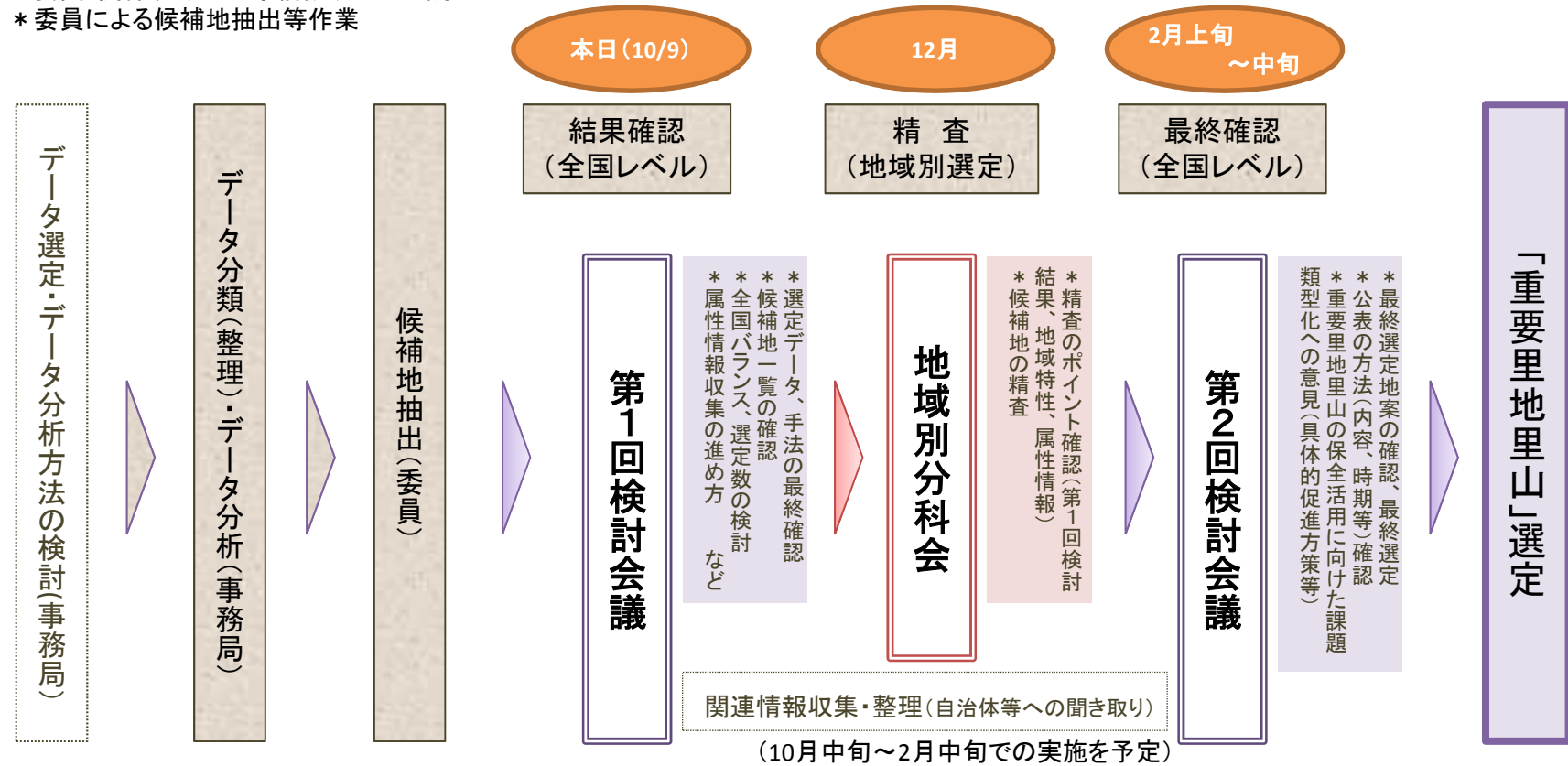


○: 専門的知見に基づ候補地

(第1回会議で整理された候補地について)
 ①委員、委員を通じた有識者等から
 ②都道府県、都道府県を通じた市町村から
 ③関係省庁から
 ⇒属性情報、課題のとりまとめ(事務局)

資料1-4 年間スケジュール

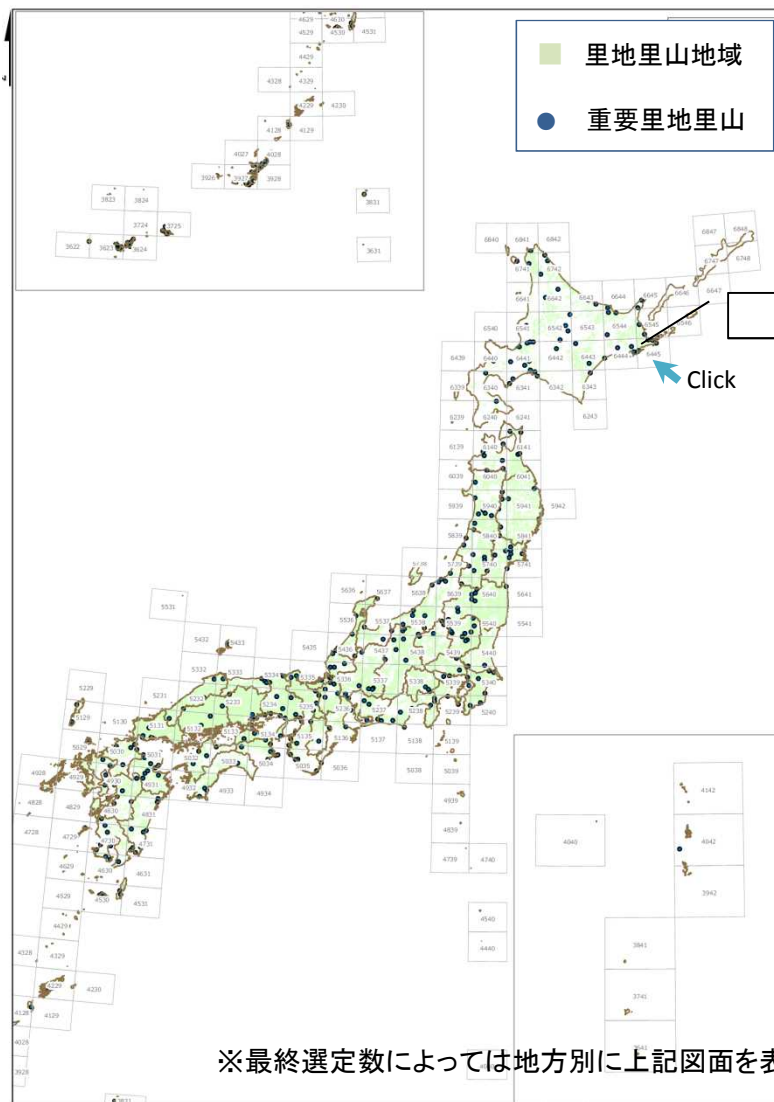
- * 委員・関係省庁への事前説明および調整
- * 委員による候補地抽出等作業



※選定の経緯については、いつでも振り返ることができるように、整理の段階毎(候補地段階、分科会精査段階、全国担当精査段階等)に整理しておく

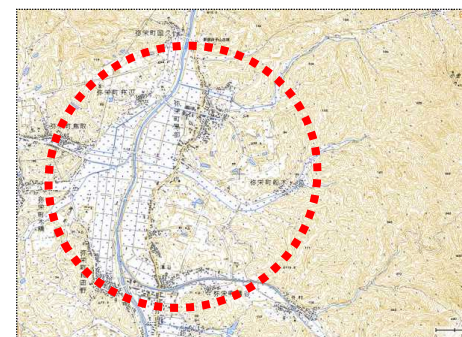
(参考) 「重要里地里山」のアウトプットイメージ

選定後のアウトプットについては以下のようなイメージを想定。なお、具体については第2回検討会議に諮り決定する。



(個票(PDF))

- ①名称(地区名、集落名等)
- ②所在地(都道府県・市町村)



(1/25000スケール)

- ③生態系タイプ分類(二次林6区分)
- ④国立公園等指定状況
- ⑤該当する選定基準・指標
- ⑥選定理由(⑤の結果などを踏まえ文言で記述)
- ⑦属性情報(自治体等からの聞き取り情報を中心に、地域の里地里山の豊かさをPRできるような情報を整理。⑥以外の生物情報・活動状況、人との関わりなど)

選定された「重要里地里山」については、個票を作成し、各地の選定にかかる情報を見ることができるようにする。

選定理由や属性情報を参考に、選定された里地里山を地域活性化のツールとして活用してもらえることを目指す。

個票で示す選定地の地図と選定範囲はおおよそのものであり、各地での活用状況に合わせて、適宜変更可能であることを注記しておく。